

日光の幻のテレインが復活

木村佳司

早大 OC 大会 2013年9月1日(日) 栃木県日光市

© 日本学生オリエンテリング連盟

毘沙門山

栃木県日光市



第34回早大OC大会
2013年9月1日(日)

実行委員長 渡邊彩子
運営責任者 田淵稔二
競技責任者 藤村陸
緊急連絡先

ゴール閉鎖 14:30
復習終了 16:30

➕ 救護所
🚰 給水所
✕ 立入禁止

【地図作成】
調査原図：日光市行政図、
レーザ測量等高線図(DEM)
調査者：山川克則、三上雄亮、西村徳真
調査期間：2013年2月～8月
地図縮尺：(有)ヤマカワウォーエータープライズ
発行：日本学生オリエンテリング連盟
2013年9月
OCAD9.7.1 ライセンス番号1995

日本学連のメモリアルテレインともいえる日光の「毘沙門山」が早大 OC 大会で復活した。

早大 OC 大会 2013年9月1日(日)
栃木県日光市

結果

- 6-1 - 5km ↑225m
- 1 真保陽一 0:40:55 B&B
 - 2 結城克哉 0:42:49 鞍部同好会
 - 3 深田 恒 0:43:57 東大 OLK
- 6-2 - 4.98km ↑220m
- 1 藤沼崇 0:40:51 新大 OB 越王会
 - 2 大西康平 0:42:40 ぞんぴ〜ず
 - 3 宮西優太郎 0:42:48 東北大学 OLC
- 6s - 3.85km ↑195m
- 1 太田貴大 0:37:56 みちの会
 - 2 大嶋拓実 0:39:53 くすのき!
 - 3 大久保宗典 0:45:21 東大 OLK
- 5 - 4.24km ↑200m
- 1 清谷智弘 0:45:46 横浜 OLC
 - 2 根本直人 0:46:46 千葉大 OLC
 - 3 齋藤英之 0:48:10 川越 OLC

- 5s - 2.97km ↑120m
- 1 山本真司 0:30:23 ES 関東 C
 - 2 大塚友一 0:31:18 京葉 OLC
 - 3 桜井剛 0:32:55 ES 関東 C
- 4 - 4.06km ↑155m
- 1 長友武司 0:59:09 千葉 OLK
 - 2 細川公平 0:59:42 東工大 OLT
 - 3 小泉知貴 1:03:58 KOLC
- 4s - 2.98km ↑105m
- 1 千葉史子 0:41:09 東大 OLK
 - 2 明石孝平 0:46:34 千葉大 OLC
 - 3 岩瀬祐介 0:47:17
- 3 - 3.36km ↑125m
- 1 樋口佳祐 0:44:54 名古屋大学
 - 2 筆谷敏正 0:49:58 早大 OC 寿会
 - 3 小澤拓美 0:51:38 多摩 OL
- 3s - 2.57km ↑90m
- 1 松島彩夏 0:40:32 立教
 - 2 辻村 修 0:49:01 コンターズ
 - 3 永元秀和 0:57:37 京葉 OLC
- G - 2.49km ↑70m
- 1 井戸川祥子 0:54:56 日本女子大 OG
 - 2 山内寛治 1:13:01 千葉県柏市
 - 3 山内哲平 1:13:16 千葉県柏市

日本学連の出発地

1985年3月、日本学生オリエンテリング連盟が正式に発足し、この年から2日間の春インカレが開始された。このとき、ロングディスタンス種目のテレインとして使用されたのが「毘沙門山」である。(当時、オリエンテリングの個人種目はロングディスタンス種目しか無かった) 毘沙門山の東側からスタートし、険しい毘沙門山塊の鞍部を抜け、最終的に日光所野地区へフィニッシュするコースだったように記憶している。

その後、日光所野地区は地図がリメイクされ何度もインカレや合宿で利用されてきた。しかし毘沙門山そのものはその後一度も再調査されることなく、20年以上オリエンテリング用テレインとして利用されることはなかった。その理由は、急傾斜の毘沙門山の山塊とテレインを分断する道路の存在がオリエンテリングのコース設定に制約となることだ。

再始動の狼煙を上げた早大

毘沙門山東部は、ロングコースのテレインとして使いにくい、ミドルコースなら充分利用できる。公共交通アクセスはよい。今の栃木県には活発な地元オリエンテリング団体が無いことから、こんないいテレインの再地図作成が進んでない。大学の多くが集中する東京からも日光は遠く、地図作成もままならない。

学生オリエンテリングシーンをもっと活性化させたいと考えていた山川氏（ヤマカワ・オーエンタープライズ社）は、このテレインを使ったプランを提案した。毘沙門山の地図の再調査を日本学連の地図として行い、大会・練習用地図としてメンテする。地図の初回リリース時は何らかの競技会を行うというものだ。

今回、このプランに立候補してきたのは早稲田大学のクラブを中心とする早大 OC。これが今回の早大 OC 大会となった。

早大 OC 大会は最近のクラブの体力低下から、主催大会を毎年開催できる状況ではなかったが、このプランに応募することで主催大会を開催することができた。これにより早大 OC はその活動に魅力を取り戻したと言えるだろう。



幻だったテレインを快走する参加者



山本淳史（日本学生オリエンテリング連盟の現幹事長）
夏でも通行可能度のよい、日光毘沙門山を駆け抜ける。
復活を遂げる早大 OC に象徴されるように、日本学連も加盟員が大きく伸びつつある。
JOA（日本オリエンテリング協会）とも、今は良い関係になっている。

クラス分けへの試み

今回の大会では、一般的な大会とクラス分けが異なっていた。JOA が発行したオリエンテリング指導教本を目安に、ここに記載してある 6 つの指導段階をそのまま参加者クラスに適用している。

これは参加するコースの難易度が事前に明示されるという参加者上の利点がある。さらに普段は一緒に競い合うことのない参加者と競い合える利点もある。

だが、一方で同一性、同一年齢の者が競い合うという形にはならず、女性や年配者はいつものライバルと競い合えないクラス分けとなってしまった。特に女性が上位者として表彰台に上ることは難しい。

こうした利点と欠点を勘案して、主催者が目指すクラス分けにすればよいだろう。

学生に戻った活気

日本学連の加盟員は一時期減少していたが、ここ 2 年は増加に転じている。今回の早大 OC 大会は、大学オリエンテリングクラブに活気が戻ってきた現れだろう。

福島第一原発事故の風評で、最近元気がなくなっている栃木県だが、オリエンテリングに関しては学生たちの夢の場所となっている。

今回の早大 OC 大会と同じ仕組みで、11 月には千葉大学・東京工業大学合同の競技会が栃木県矢板市で開催される。2014 年 3 月に開催されるインカレミドルリレー用テレインの隣接地であることも含めて、こちらの取り組みも注目される。

（木村佳司）